



サマ 北太平洋 平成29年度資源評価結果

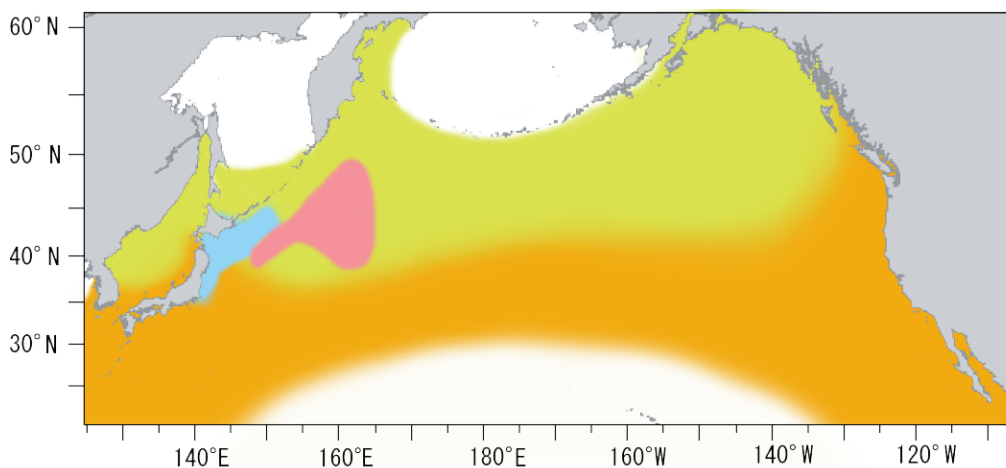
1

サマ 北太平洋 平成29年度資源評価結果*

サマ北太平洋の生活史と
漁場形成模式図

生物学的特性

- 寿命：2年(0歳と1歳魚)
- 成熟：一部は0歳魚で産卵
- 産卵：主に冬季
- 食性：動物プランクトン
- 捕食者：大型魚類・海鳥



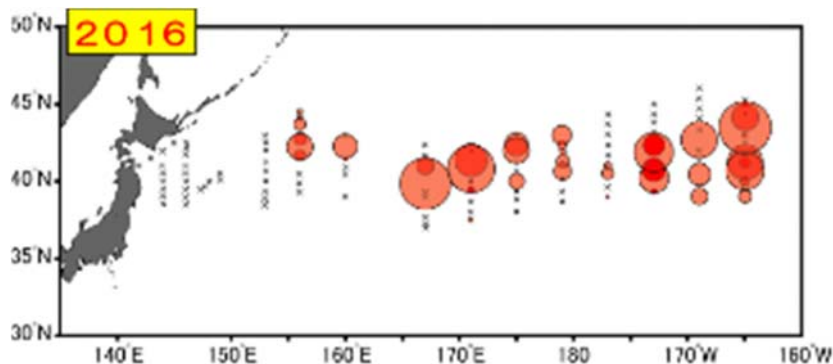
索餌場(夏季) 日本漁船の漁場(秋季)
産卵場・生育場(冬季) 外国船の公海漁場

*平成29年度国際漁業資源の現況<http://kokushi.fra.go.jp/index-2.html>

2

分布量の推定方法(日本における手法)

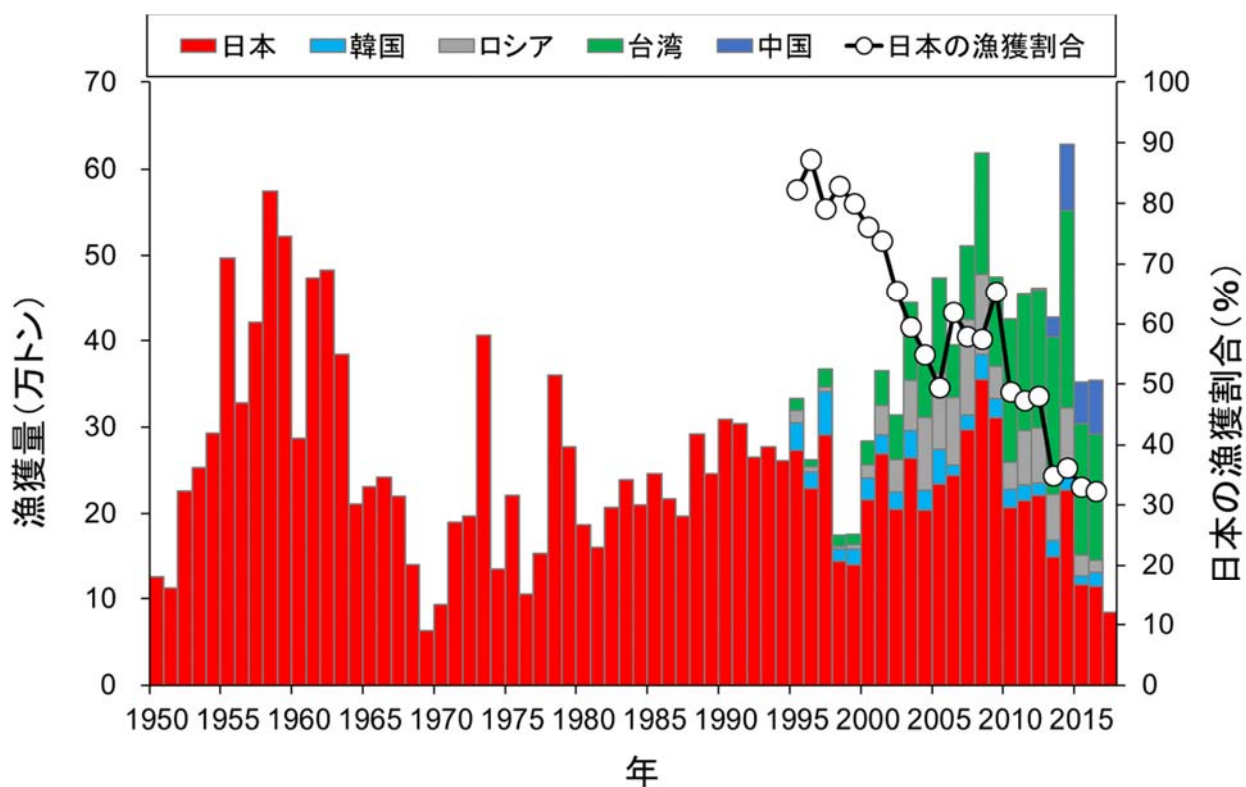
- 6~7月の調査船による分布調査(2003年以降)
表層トロールで実施、面積密度法で分布量を推定
- 漁船のCPUE(標準化CPUE)をもとに長期的な資源量の相対的推移を把握



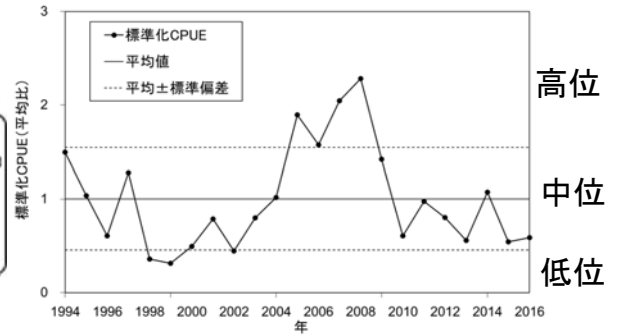
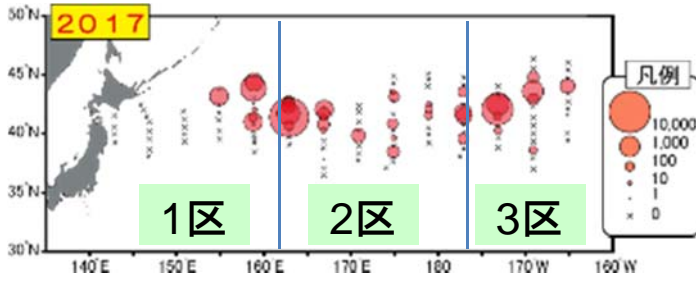
※上記の2手法による資源量の変化(定量的・相対的)をもとに
NPFCにおいて国際的資源評価に向けて取り組んでいる

3

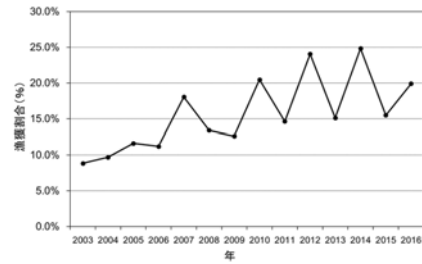
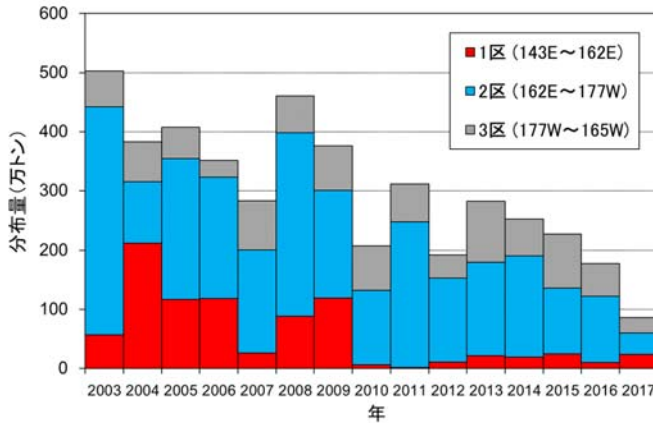
各国の漁獲量と日本の漁獲割合の推移



分布量と漁獲割合の推移



サンマの標準化CPUEの推移(計算を実施した1994~2016年のみ)
日本のさんま棒受網漁船の漁獲資料を基に解析した。



サンマの漁獲割合の推移(2003~2016年)
漁獲割合は(各国のサンマ漁獲量の合計値/日本の調査船調査による推定分布量)として求めた。

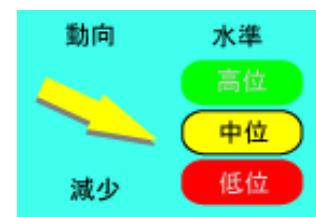
2017年 分布量:86万トン

5

資源評価のポイント

- 資源水準
高位と中位、および中位と低位の境界
資源量指標値(標準化CPUE)の平均±標準偏差
- 資源動向
過去5年の分布量(調査船調査結果)の推移で判断

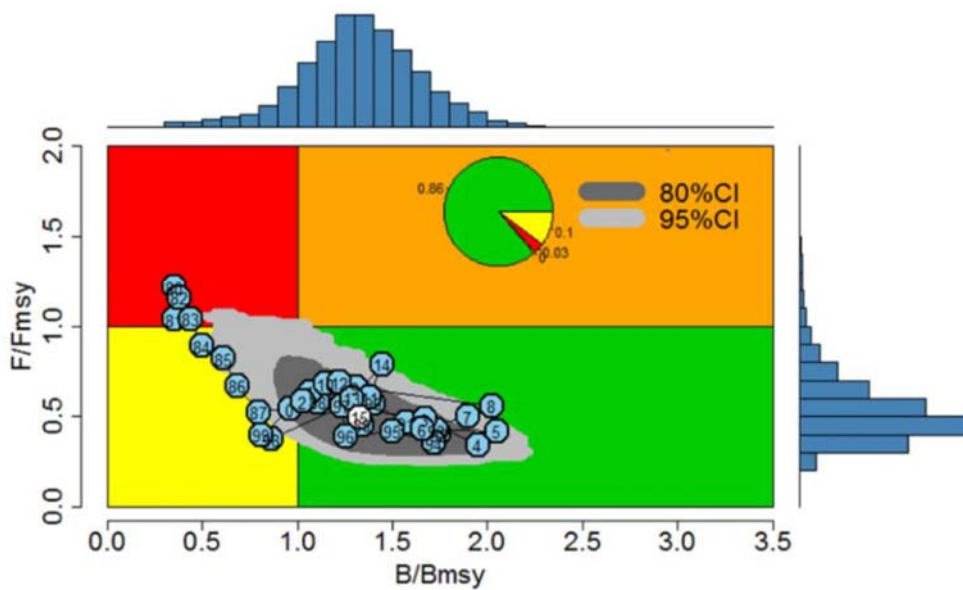
- 資源水準は中位、動向は減少



※従来の基準(2015年度の資源評価)を基に判断。

6

NPFCにおける資源評価結果



- ✓ 2015年までの各国のCPUEおよび日本の調査船による分布量推定結果を基に作成。
- ✓ 2016または2017年までの指標値を使って更新中

7

管理方策

管理目標	2017年の科学委員会では暫定的な資源評価結果に合意した。
資源の状態	日本の調査船調査結果(推定分布量)及び漁獲情報(標準化CPUE)では、共に2005年以降減少し、2010年以降は中位水準となっている。
管理措置	2017年7月に札幌で開催されたNPFC本委員会では、中国等の遠洋漁業国・地域による許可隻数の増加禁止は合意されたものの(沿岸国の許可隻数は急増を抑制)、数量規制の合意には至らなかった。

8